

第26回日本木材学会地域学術振興賞
「木材の生理心理的評価に基づく地域普及と製品開発」
櫻川智史（静岡県工業技術研究所）

この度は、地域学術振興賞という名誉ある賞を頂き大変光栄に存じます。ご推薦、ご選考くださいました先生方に深く感謝します。また、これまで、共同研究と製品開発で、ご指導、ご協力頂いた諸先生方、企業団体の皆様、職場の上司、同僚に心より感謝するとともに、厚くお礼を申し上げます。永年に渡り地方公設研究機関で従事してきた私にとって、これまでの研究や製品開発が地域振興に貢献したと認めて頂けることほど嬉しいことはありません。本当にありがとうございます。

平成2年に静岡県に採用され、静岡県工業技術センター（現 静岡県工業技術研究所）での勤務となり、以来研究員として、木製家具、木質建材を主体とした県内住宅関連産業の支援に従事してきました。今回の受賞は、これまで県内産業の振興を目的に、協同して仕事をさせて頂いた関係者皆様への賞を代表して受け取るもので、大変嬉しく思っています。この場をお借りし、これまでの仕事の一端をご紹介させて頂くことで、皆様へのお礼に代えさせて頂きたいと思います。

木材・木製品の魅力には、木の色と木目の美しさ、手触りと香りの良さが挙げられます。しかし、人を対象として、これら木材の効能を研究している例は、極めて少ないものでした。そこで、県内の主要製品である木製家具と木質建材の普及、それら製品開発の礎となるべく、木材の刺激（視覚、触覚、嗅覚）が人に与える影響についての研究を始めました。当時森林総合研究所にいらした宮崎良文先生にご指導頂いて、人が受ける木材刺激のストレス応答を、言語を用いた主観評価と血圧変動による自律神経系評価を併用した生理心理的評価により検証しました。その結果、木材の視覚刺激は、「自然」で「変化に富んだ」印象を受け、木目が嫌いな人でも血圧は上昇しないこと、木材の接触刺激は、「自然」で「安全・快適」な印象を受け、冷やしても「自然」と感じ、冷たくても（5℃に冷やしても）血圧は上昇しないこと、木材精油の嗅覚刺激は、悪臭による不快感を低減し、血圧は上昇しないことなどが分かってきました。これら一連の研究により、木材の刺激は人のストレス状態を緩和する効能の一端が科学的に証明できてきたのではないかと思っています。これらの知見は、木材学会での発表や論文掲載のみならず、静岡県木材協同組合連合会様で採り上げられ、パンフレットを作成して頂き、広く業界に普及することができました。

研究で検証した“木材の癒し効果”を最大限に発揮することを念頭に、様々な木製品開発にも取り組みました。染色突板による自動車インドアパネル、木製東名遮音壁、和室用木製ダイニングセット等、県内木材産業の方々と数々な製品開発を行い、開発した製品は、自動車部品、高速道路、幼稚園、小中学校等の教育施設、高齢者施設等に採用され、少なからず木材の普及に寄与することができたと思っています。

このような成果が得られたのも、その時々の人の出会いに大変恵まれたからだと改めて感じます。今後も、人の出会いを大切に、県内産業のさらなる活性化を目指して研究に取り組んでいけたらと考えております。今後とも引き続き木材学会の皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、御願い申し上げます。